

最近私が園庭に出ると、子どもたちから「おしりたべていいよ！」と声が掛かります。おしりかじりむしと聞いて追いかけて、子どもたちはおしりを食べられないように逃げていく、名前のない遊びです。時には、「焼肉のタレつけて食べちゃうゾー」「わさびつけて食べちゃうゾー」とこちらも調子に乗りますが子どもたちと追いかけてっこをしています。大きい子たちはさすがといった感じの身のこなしで、すばしっこく、捕まらないように逃げていくのです。(意地になって捕まえますが。)

文科省から幼児期運動指針というものが出ており、そこでは一日合計60分以上の運動が推進されています。そして、運動指導を受けている子ども、同じ時間戸外あそびをしている子どもの方が運動能力が高いというデータも出ています。先に紹介した「おしりかじりおに」(今名付けました)はあつという間に30分経ちます。そして園庭の坂や小山を走り回っています。

指針はもちろん大切ですが、考えすぎると良くない遊びがつまらなくなるので、頭の片隅に置いていきます。何よりも、目の前の子どもたちが笑顔で遊んでくれている、それが一番と感じています。

園長 梶原 秀一

今月の予定

カレーライスの日

7/5 (水)



今月もみんなで力を合わせて、おいしいカレー、サラダ、フルーチェを作ります。小さいお友だちの「がんばれー！」も美味しくなる隠し味です。

七夕笹焼き

7/10 (月)



園舎内はみんなの飾りでとっても華やかになりましたね。この日はみんなの願いが込められた短冊を煙にして空に届けます。7日(金)は笹竹をバックにクラス集合写真を撮りますのでご通知おきくださいね。

お泊まり保育(5歳児のみ)

7/14 (金) ~ 15 (土)



年長児ぞうグループのみんなが保育園にお泊まりします!自分たちで買い物をしたり、夕飯を作ったりする予定です。年長児のご家庭は詳細につきましては手紙をご覧くださいね。0~4歳児は生活の仕方が変わる学年もありますが、通常通りの登園をしてください。

おべんとうデー

7/19 (水)



みんなが待ち遠しいお弁当の日!子どもたちの嬉しそうな様子はもちろんですが、お子さんのことを考えながら作ってくださるお家の方の姿も浮かんできます。いつも本当にありがとうございます。

☆お弁当に入れる物は、必ず熱を加え、冷ましてからフタをしてください。フタの上には保冷剤をお願いします。

☆誤飲や喉に詰まるのを防ぐために、ミニトマト、ミートボール、うずらの卵などは半分に切ってから入れてください。また、デザートのにんにくゼリーもご遠慮ください。

誕生会

7/27 (木) 10:00~

7月生まれのみんなの誕生会です。よ~!喜んでもらえるように職員がプレゼントとしての出し物を考えています。今回は何かお楽しみに。

交通安全教室

7/31 (月)



今回は「信号の見方・渡り方」について教えて頂きます。ご家庭でもお子さんと交通安全について確認してみてくださいね。

お知らせ・お願い

★保護者会主催夏祭りを8月27日(土)に予定しています。現在、保護者会の夏祭り実行委員の皆様が、色々とアイデアを出し合って子どもたちのために考えてくださっています。詳しくは後日お伝えいたします。

★7月29日(土)、30日(日)は4年ぶりの牛久のお祭り「かっぱ祭り」です。29日土曜保育をご利用の方...15時から花水木通りが通行止めになります。線路沿いは通行可能ですので、お迎えの際はお気を付けください。

★お盆の期間中の保育について

お盆の期間8月14日(月)、15日(火)は希望保育とさせていただきます。後日、別途手紙を配布しますのでご確認をお願いいたします。

☆保育士 古田 はるか 先生が出産に伴い、7月7日(金)をもって退職となります。保護者の皆様、これまでありがとうございました。元気な赤ちゃんの誕生を待っています!

「ファールでなく、ゴキブリ昆虫記」  
いよいよクワガタ・カブトの出番がやってきた。しかし、今年はおかしなことがあった。春まだ浅き4月中旬に、「クワガタを捕まえた」と、0君が走って来た。確かに、手にしていたのは小さいけれどクワガタだった。それにしても、早すぎる。これも自然環境の破壊・地球温暖化の現象か。▼北竜台の園は森の中にあるので、虫の宝庫である。クワガタ・カブトは毎日沢山捕れる。大きなナナフシ、美しい玉虫、鬼やんま等、珍しい虫もいる。初夏から秋に、切り株の上で、自慢のクワガタ、カブト場所が始まる。都会から転園してきた子も、初めこそ怖がるが、周りの子が平気で、虫をつかんでいるのを見て、青虫やカタツムリを手にはのせて眺めるようになる。▼女の子は、小さな青虫やダンゴ虫が好きだ。初めは「気持ち悪い!」と言っていた子が、手の甲にダンゴ虫を乗せ、モソモソ動く様子に目を細めて、「かわいい!」なんて言いつつ、そのうち牛乳パックを抱え、もつたいぶつて「見せてあげようか」と言う。中味は分かっているのだから、お母さんが一応、覗いてあげる。ダンゴ虫が重なってウジャウジャ動いている。嬉しそうに「お家を持って帰るの」と...。牛乳パックの中を覗いたお母さんの顔が目に浮かぶ。ゆめゆめ「かわいい!」なんて言うお母さんはいないだろう。「ギャー、ウエー」と、絶叫が聴こえてくる。▼男の子は、黒光りする強そうなのが好きだが、お母さんが抗議してきたことがある。連絡帳に「ゴキブリなど、持ち帰らせなくて下さい」と書いてあった。油虫と言われるとおり、油を塗ったようにピカピカと黒光りして、ヒゲをピクピクさせ、動きも早い。忍者のように格好良い?虫かごに連れて意気揚々と「すごいヤツを捕まえたよ」と見せたのでしよう。ゴキブリの大嫌いなお母さんは(ゴキブリを好きな人はそうはいないで

しょうが、)ギョットした。そして、前述のとおりお怒りになった。決してゴキブリと気付いていながら、持ち帰らせたわけではないのだが。▼ゴキブリは元々、山林など暗くジメジメしたところで生息している、それが家の中の暗いところに侵入してくるらしい。ゴキブリを家の中で見つけたら、ギャーギャー叫んで、テーブルの上に乗ったりする人もいる。それを虫かごに入れて持ち帰ったら、激怒するのは当然である。しかし、いまだかつて、園庭でゴキブリを捕まえた子はいない。なにしろ素速っこい。緊急時に隠し持った羽根を広げ、飛び去ることもできる。その強敵を、何と素手で捕まえたという。思わず「すごい!よくやった!」と言いつつ、私達は、このせわしないデジタル社会の中で、電子機器に振り回され、人間らしい生活ができなくなってしまう。幼児期は自然の中で、自由に伸び伸びと生活し、体験することが人間らしい成長を保障すると思う。自由に虫取りをさせたい。この文章を書き終わった後に、「東ロボくん」開発の国立情報学研究所教授の新井さんが、次のように語っていた。「AIを使いこなせなければ、ならない社会は、もう後戻りできないが、使いこなせる大人になるためには、幼少期にこそ、「サル」として育てる必要がある。二次元の世界には、舌さわりも手触りもない、そもそも平面的なものを立体的にみよというのは無理。体で暑さ寒さを感じる、こうすると転ぶんだとか、昆虫が動く様子をじっくり見て、「動く」という統一的原理を認識するとか、そういうことを無言のまま学ぶ時期がある。その時期が十分ないと、その後の発達が難しくなるように人間はできている。」我が仲間をサルと言いつつ、言い過ぎと思うが、私も園長ゴリラと言われている。原始的に生活をさせよう、ということだろう。

理事長 浅田 精利